



大樹のこころ

みんな学びの主人公

本校は岡崎市教育委員会より研究委嘱を受けており、来年度に研究発表会を行って、内外にその成果の是非を問うこととなります。研究発表会の前年には、岡崎市教育委員会の教育長や主事、教科領域指導員が本校を視察し、授業の現状や研究の進捗状況を確認する会が行われます。視察後に、研究の方向性について指導助言があり、それを受けて、新たな授業実践へと進んでいくこととなります。この会は「合同訪問」と呼ばれ、6月27日(木)に実施されました。

本校の研究は「聴き合う関係づくり」「参加度の高まり」「学びの深まり」という3つの柱から成り立っています。聴き合う関係づくりで大切なのは「アイコンタクト」と「反応」です。発言する子を見て聴いたり、発言内容に対して肯定的な反応をしていきます。このような姿勢が互いを認め合う雰囲気高め、教室が温かさに包まれていきます。参加度を高めるためには「正解を求めない」学習を展開します。子供たちに「自分はどう思う」と問いかけていくことで、正解を言わなければいけないという呪縛から解放し、子供らしい伸びやかな発言を促していきます。学びを深めるためにはチーム活動を取り入れています。考えを深める時には4人チームになり、課題について互いの考えをじっくりと関わらせていきます。

合同訪問では、午前中に全てのクラスが授業公開を行い、上記のような学習が実践されました。大樹寺小の授業の良さは、子供たちの参加度が高く、子供主体で進められていくことです。入学して3カ月にも満たない1年生でも、自分の思いを発言し、友達と関わりながら考えを深めていきます。高学年になると、発言の内容も奥が深いものとなり、大人が気付かないような意見も出てきます。たかが授業、されど授業。子供の生き生きとした姿は、参観する者に感動をもたらします。

午後には5年1組が本校を代表する特設授業として体育館で授業を行いました。市教委の主事や教科指導員、そして本校の全職員が参観します。その数50名ほど。緊張で子供たちが大人しくなるのではと心配しましたが、全くの杞憂に終わりました。複雑な立体図形の体積を様々な方法で求めていく子供たち。自分の考えをみんなの前で説明したり、チームで互いに助け合いながら求積方法に迫っていく様子に、本校の研究が目指す子供の姿がありました。

その後の全体協議会では、教科指導員と本校の先生方がチームになって、より良い授業にするための意見交換が行われ、有意義な研鑽が積み重ねられました。最後のご指導の場では、「子供の参加度が高い」「びっくりした」「子供が前のめりになって授業に参加している」「大樹寺小では、全ての学級で子供主体の授業が行われている」「大満足」など絶賛の嵐となりました。本校の研究主題は「DJ 学習でみんな学びの主人公」。まさに子供たちが主人公になった1日となりました。

